

報告 Report

ものづくり大学同窓会 平成 24 年度 地域貢献活動報告

原稿受付 2013 年 3 月 31 日

ものづくり大学紀要 第 4 号 (2013) 113~116

加藤大樹*1, 上原苑子*2, 大塚秀三*3, 川辺憲一*4

*1 ものづくり大学同窓会 理事(学務部 総務課 施設係)

*2 ものづくり大学同窓会 会長(学務部 教務・情報課 教務係)

*3 ものづくり大学同窓会 監査(技能工芸学部 建設学科)

*4 ものづくり大学 学務部 学生課 課長

1. はじめに

一昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、ものづくり大学同窓会（会長：上原苑子・建設 2 期）では昨年に引き続き有志を募り、災害ボランティア活動（以下、「ボランティア活動」とする）を行った。また、近隣の幼児・児童を主対象にもものづくりの楽しさを啓発する事を目的とし、既に社会で活躍している本学の卒業生の有する技能・技術を活かした地域貢献活動として、体験型ものづくり教室（以下、「ものづくり体験教室」とする）を、昨年度に引き続き実施した。

ここでは、2012 年度にもものづくり大学同窓会が実施した「ボランティア活動」ならびに「ものづくり体験教室」について報告する。

2. 活動概要

「ボランティア活動」は、年間を通して 8 回（2013 年 2 月末日現在）行い、活動場所は岩手県陸前高田市とした。

「ものづくり体験教室」の開催は、行田市よりものづくり大学が依頼を受けて実施している「おもしろものづくり教室」、行田市商工会議所の主催する「商工祭・時代祭り」など、大学周辺において年間を通じて複数回実施した。メニューは、毎年好評を博している道具箱型筆箱およびガラスブラスト、色々なものをデコレーション、オリジナルペンたてである。使用する材料の一部については、建設学科のご好意により実習の廃材をご提供頂いている。また、講師は昨年度同様ものづくり大学同窓会役員ならびに卒業生有志を主としており、ボランティアによるものである。今後、同教室を更に活性化するため、Teaching Staff として卒業生を広く募っているところである。

3. 活動内容

3.1 陸前高田市災害ボランティア

3.1.1 概要

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、昨年度と同様に岩手県陸前高田市での復興支援活動を行った。

この活動は一昨年より開始し、今年度で2年目となる。活動内容に関しては、地震発生直後であった昨年度とは現地のニーズが変化してきていた。そのため、瓦礫撤去等の活動も行う一方で、現地の方々の生活に密着した活動を、より重点的に行った。

3.1.2 実績報告

ボランティア活動は、4月・5月・8月・9月・10月・11月・12月・2月にて行い、33日間で延べ266名での活動を行った。（写真1）

今年度は昨年度とは違い、瓦礫撤去や汚泥の掻き出しといった作業が若干落ち着いており、現地で生活する方々から寄せられる依頼内容が、より生活に密着したものへと変化していた。その代表的なものが、第3回の活動にて行った、仮設住宅への軒の設置工事である。これは「仮の住まい」である仮設住宅において、長期間生活している住民より「雨天時などは外出するのが億劫」「住民同士の交流場所が無い。特に雨が降ると、高齢者は外に出なくなる」という話をよく耳にしたために行ったものである。実際、軒を設置した仮設住宅は玄関先に風除室はあるものの、通路に屋根は無く、また雨の当たらない交流場所も無いため悪天候時は仮設住宅全体が静まり返っていた。これを改善すべく、仮設住宅の全ての通路と、その中心にあたる場所に軒を設置した。また、工事期間中には、昨年度に引続き、ものづくり大学大塚研究室・日本大学中田研究室合同チームが参加し、交流スペースへ設置するベンチの製作や、専門的見地に立った意見を頂くことができた。そして、今回最大のネックであった材料の購入に必要な費用について、有志のみで捻出する事が難しかったため、ものづくり大学の教職員や関係者の方々に寄付という形でご協力を頂き、技術指導に関しては建設学科元非常勤講師の村上村上幸一氏にご協力頂く事ができた。

その他、ボランティア活動の主な内容は、下記の通りである。（表1）

また、オリジナルグッズの製作についても、昨年度と同様に行い、その収益は仮設住宅等へのボランティア活動の費用として充てることとしている。

なお、本活動については2012年8月7日付の岩手日報（写真2）及び2013年3月10日付のサンデー毎日（写真3）にて紹介されている。

表1 平成24年度ボランティア活動一覧

No.	活動期間	参加延べ人数	活動内容
1	4月14日（土）～15日（日）	4名	GW 長期ボランティア活動 事前調査
2	4月29日（土）～5月6日（日）	97名	定置網補修、汚泥掻き出し、篩制作、テーブルベンチ制作、資材庫制作、雨樋設置、宿泊基地整備、建設実習制作ベンチ寄贈、陸前高田市教育長訪問
3	8月10日（金）～19日（日）	103名	仮設住宅への軒設置工事
4	9月29日（土）	4名	現地活動拠点調査
5	10月6日（土）～10月8日（月）	12名	ボランティア宿泊地 整備・改修
6	11月23日（金）～25日（日）	16名	集会所へのスロープ設置
7	12月22日（土）～24日（月）	9名	集会所スロープ防錆剤処理仮設住宅案内板修理
8	2月9日（土）～11日（月）	16名	(NPO) P@ct（ボランティア受付財団）軒および倉庫設置



写真1 活動状況



写真2 岩手日報 (2012/8/7)

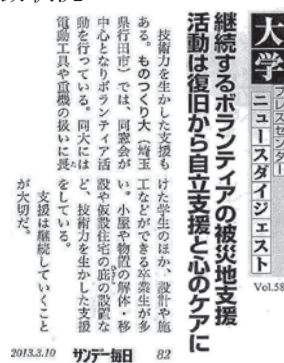


写真3 サンデー毎日 (2013/3/10)

3.2 小学生対象体験教室

3.2.1 色々なものをデコレーション

(1) 概要

日本家屋の壁や床・土塀等，仕上作業で欠かせない職種である「左官」に馴染みのある子どもが少ないのではないかと，という観点から地域の子どもに対し左官材や仕上げ材を使用したものづくり体験教室を開催した。

(2) 実績報告

一昨年度と同様に，5月にさきたま古墳で開催された「さきたま火祭り」にて開催し，67組の参加があった。

3.2.2 道具箱型筆箱

(1) 概要

日本文化の一つである職人の道具箱の原理を現代の子供たちに伝えるため，本来の縮尺を変更し，筆箱として使用できるようにした。

(2) 実績報告

7月に，昨年と同様に，ものづくり大学が行田市からの依頼で開催している「おもしろものづくり教室」にて，「道具箱型筆箱をつくろう」を開催し，8組の応募があった。

3.2.3 グラスブラスト

(1) 概要

ブラストは，建築・製造の両分野において使用されている技術であるが，加工現場を目にする機会の少ない技術である。そういった技術に触れることで，地域の子どもに対し，昨年と異なる角度からもものづくりへの好奇心にアプローチできるのではという思いからこの体験教室を開催した。

(2) 実績報告

7月に，3.2.2 (2)と同様の依頼により，「グラスブラストでコップに絵を描こう」を

開催し、15組の応募があった。

3.2.4 オリジナルペンたて

(1) 概要

このペンたては、1枚の底板と同一の形状をした部材のみで作られるもので、組み立て方法は対象者である幼児・児童のことを考慮し、凹みを入れた部材同士を嵌め込むだけとした。構成部材が単純であるが故に自由度が高く、参加者の好奇心や自由な発想を阻害することなく後押しできるのではないかという思いから、この体験教室を開催した。

(2) 実績報告

11月に行田商工会議所からの依頼により、「オリジナルペンたてを作ろう」を開催し、65組の参加があった。

4. まとめ

本年度も、これまで以上に災害ボランティア活動を精力的に行い、被災地の復興も実感する事ができた。しかし、2012年12月に災害ボランティアセンターが閉鎖し、1月よりNPO法人P@CT（パクト）が同様の役割を果たす事となったため、今後の活動に変化が生じることが予想されるが、これからものづくり大学の卒業生として、まだ先にある被災地の復興に向けて尽力していく所存である。

また、体験教室についても、継続的に開催していく予定である。（表2）

表2 参加者一覧

体験教室項目	参加者数	実施時期
色々なものをデコレーション	67組	5月（火祭り）
道具箱型筆箱	8組	7月（おもしろ）
グラスブラスト	15組	7月（おもしろ）
ペン立て	65組	11月（時代祭り）

謝 辞

ものづくり大学同窓会の活動に際し、学校法人ものづくり大学ならびにご支援頂いた教職員の皆様、実習用機器および廃材提供では製造学科・建設学科より多大なるご支援を頂いています。また、ボランティア活動の一部は、赤い羽根共同募金からの助成を受けたものです。本活動には同窓会役員をはじめ、多くの卒業生・在校生有志のご助力を得ています。ここに、紙面を借りて関係各位に深謝いたします。

文 献

- 1) 加藤大樹・上原苑子・大塚秀三・宮本伸子：ものづくり大学同窓会 平成 23 年度 地域貢献活動報告，ものづくり大学紀要，PP104-107. 2011. 6.
- 2) 加藤大樹・上原苑子・大塚秀三・宮本伸子：ものづくり大学同窓会 平成 23 年度 地域貢献活動報告，ものづくり大学紀要，PP119-122. 2012. 6.